

## エピソード38

子どもがトイレに行きたいと  
言い出せず困っていると  
保護者から相談がありました。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



初めて小学校1年生を担当をした時の  
経験をお聞きします。

ひとみさんが、トイレに間に合わず  
お漏らしをしてしまいました。僕は、  
1年生だからよくあること、と思いました。

学校で着替えをさせて、お母さんにも  
電話で連絡し、状況をお話ししました。





お母さんはどんな様子でしたか。

僕は、トイレに行きたい人は言ってね、  
と休み時間ごとに、子どもたちに話して  
います、とお母さんに伝えました。

お母さんは「ひとみは、自分で言うのが  
苦手なところがあります。」と言いました。





その後、あったことを聞かせてください。

5月に入ったある日、ひとみさんが1日に2回もお漏らしをしてしまったんです。

先輩の先生から「我慢させていない？」と聞かれましたが、僕はいつも声をかけていたし、気をつけていたつもりでした。





家庭にも連絡したのですね。  
その時の様子はどうでしたか。

ひとみさんが、家に帰ってからもお漏らし  
してしまった、とお母さんから聞きました。

僕は「病気なのかな？」と一瞬思いました。





病気かな、と思った先生は  
どうしたのですか。

養護の先生に相談しました。すると、  
「声をかけてるって、ひとみさんに声を  
かけてあげてる？」と聞かれました。

僕は、幼稚園の引継ぎや、お母さんから  
ひとみさんが、自分のことを言うのが  
苦手だと聞いていたことを思い出しました。





養護の先生の言葉から、先生は  
どんなことに気づいたのですか。

声かけは何度もしていたけれど、全体に  
しか言っていなかったの、ひとみさんは  
言い出せなかったんだ、と気づきました。



それでもう一度お母さんに電話をしました。



お母さんと、どのようなやり取りがありましたか。

僕はお母さんに「話を聞いていたのに申し訳ありませんでした。」と謝りました。

そして「ひとみさんが緊張していることもあるかもしれないけれど、安心して言い出せるように声をかけます」と伝えました。







お母さんの様子はどうでしたか。  
その後、ひとみさんはどうでしたか。

お母さんは、とてもほっとした声で  
「ありがとうございます。」と言いました。

その後僕は、早口で言葉がきついことも  
反省し、ゆっくり優しく声をかけました。  
すると一切お漏らしはありませんでした。





## なみちゃんの一言

- 子どもに声をかけるということは、一人一人の子どもにきちんと伝わっていることが大切です。
- 子どもの特性を考慮して、子どもが安心できるような、適切な声かけが必要なのですね。
- 子どもが安心する姿を見て、保護者も安心するものです。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)